The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	日本語と中国語のコピュラ文の異同
Author(s)	張, 雨辰
Citation	言語文化共同研究プロジェクト. 2020, 2019, p. 41-50
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/76967
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

日本語と中国語のコピュラ文の異同

張雨辰

1. はじめに

日本語のコピュラ文は「A はB だ」、または「B が A だ」の形式を持っており、「は」あるいは「が」、及びコピュラ動詞「だ」によって二つの名詞句「A」と「B」を結びつけるような文のことを指す。コピュラ文は一見単純なように見えるが、実際には複雑な意味を有していると言われてきた。日本語のに置いては熊本 (1995)、西山 (2003) などの先行研究がある。西山 (2003) は、日本語には、措定文、指定文、同定文、同一性文などといったタイプのコピュラ文があるとしている。

一方、中国語のコピュラ文は、コピュラ動詞である「是」を含んだ「A 是 (*shi*)B」、または「B 是 (*shi*) A」という形式を持っている。中国語には「は」と「が」の区別がないため、名詞句「A」と「B」の順序を置き換えても「B 是 A」の形式になり、日本語のような区別が見られないように思われる。従来の中国語学では、名詞句「A」と「B」の論理関係という視点でコピュラ文を分類している。例えば、王亜新 (1999) は、中国語のコピュラ文には「対象指示」と「属性規定」という二つの機能があると述べている。

しかし、2 節で示すように、このような分類は、中国語のコピュラ文の意味と性質を明らかにするには不十分であると考えられる。本論文は、西山 (2003) におけるコピュラ文の分類に従い、中国語の措定文、指定文、同定文に中心をおき、中国語のコピュラ文の意味と形式の特徴について考察する。まず、結論から述べると中国語の措定文は「A 是 B」、指定文は「**B** 是 A」、同定文は「**B** 就 (*jiu*) 是 A」、または「A 就 (*jiu*) 是 **B**[1]」の形式を持っていることを示す。また、中国語と日本語のコピュラ文の異同を対照し、両言語のコピュラ文を構成するメカニズムの解明するには副詞「就 (*jiu*)」の意味・機能を明らかにする必要があることを示す。

2. 先行研究

本節では日本語及び中国語におけるコピュラ文の分類についてそれぞれ紹介した上で、中国語におけるコピュラ文の分類の問題点について指摘する。

2.1. 日本語のコピュラ文

2.1.1 措定文

西山 (2003) では日本語のコピュラ文には措定文、指定文、同定文、同一性文などがある述べている。措定文「A はB だ」を「A で指示される指示対象について、B で表示する属性を帰す」文であると定義している。A が指示的名詞句、B が叙述的名詞句である。例えば、(1) では、「モーツァルト」が指示的名詞句であり、「モーツァルト」の指示対象は「天才」であるという属性を持っているという意味になる。

---

[1] 本論文では、「`」で強勢を、**太字**で焦点句を表すことにする。ここでは「B」が文の焦点句であることを示している。

(1) a. モーツァルトは天才だ。　　「A は B だ」
b.*天才がモーツァルトだ。　　「B が A だ」

(1b) に示したように、措定文「A は B だ」の A と B を入れ替え、「B が A だ」という形にすることができない。

2.1.2. 指定文

西山 (2003) は、指定文は「A という 1 項述語を満足する値をさがし、それを B によって指定 (specify) する」というような文と定義している。「**B** が A だ」という形式を持つ指定文では、A が変項名詞句に、B がその値にあたる。変項名詞句とは、「x が A である」という命題関数を表示する名詞句であり、指示対象を持たない非指示的名詞句である。例えば、(2) では、「学生」という名詞句が変項 x を有する変項名詞句にあたり、「太郎」という名詞句がその変項 x を埋める値となる。

(2) a. 太郎　が　学生です　　「**B** が A だ」
値　　変項名詞句
[… x …]

b. 学生は太郎です。　　「A は **B** だ」

(2b) に示したように、指定文「**B** が A だ」の A と B を置き換え、「A は **B** だ」という形にしても、その意味は変わらない。西山 (2003) では、(2b) のような形式の指定文を「倒置指定文」と呼ぶ。本論文もそれに従うことにする。

また、指定文は変項名詞句を有しているという特質上、項の位置にある値を問う wh-疑問文の意味とそれに対する応答文の意味を単一の文の中で実現している構文である、と言うことができる。

2.1.3. 同定文 :

西山 (2003) は、「A は B という特徴記述を満たす「もの」であると述べることによって、A の指示対象を他から識別して認定する」というようなコピュラ文を、同定文と呼んでいる。(3) は同定文の例であり、「隣の焼肉屋のオーナー」と「王さん」は両方とも指示的名詞句である。(3) において、「隣の焼肉屋のオーナー」という名詞句は「王さん」についての特徴記述であり、この名詞句を述べることによって、「王さん」の指示対象を他から識別して認定している。また、指定文の場合と同様に、同定文においても、「B が A だ」の A と B を入れ替え、「A は B だ」の形にしても、その意味は変わらない。本論文では、西山 (2003) に従い、このような形式の同定文を「倒置同定文」と呼ぶ。

(3) a. 隣の焼肉屋のオーナー　が　王さんです。　「**B** が A だ」
　　指示的名詞句　　指示的名詞句
　b. 王さんは隣の焼肉屋のオーナーです。　「A は **B** だ」

2.2. 中国語のコピュラ文

伝統的な中国語語学におけるコピュラ文の分析は、日本語学におけるような細かな分類ではなく、A と B の論理関係によって、二種類に分類されているのが一般的である。

杉村 (2002) は、中国語のコピュラ文「A 是 B」について、A と B には「包摂関係」と「同一関係」という二種類の論理関係がありうると述べている。「包摂関係」を「A は B に含まれ、B はある特徴を持っているものの集合であり、A はその集合の中の構成である」としている。また、「同一関係」を「A が提示するものと B が提示するものとが同一である」と述べている。

2.2.1. A と B が同一関係の文

(4) 老張　就　是　那　个　人
　張さん　then　COP　その-CL-人
　'張さんはその人だ。'

(5) 老張　就　是　那　几　封　匿名信　的　作者
　張さん　then　COP　それ-いくつ-CL　匿名-手紙　GEN　書き手
　'張さんはそれらの匿名手紙の書き手だ。'

(4) と (5) は 「A 是 (*shi*) B」の形式を有しており、コピュラ動詞の前後の名詞句が提示するものが同一であるという意味になる。例えば、(4) では「張さん」が提示する人と「その人」が提示する人と同一である。また、中国語では、同一関係の文は A と B を置き換え、「B 是 A」の形にすることができる。

2.2.2. A が B に包摂される文

(6) 老張　是　農民
　張さん　COP　農民
　'張さんは農民だ。'

(7) *農民　是　老張
　農民　COP　張さん
　'農民が張さんだ。'

(6) は「A 是 (*shi*) B」の形式を有する包摂関係の文であり、A が B に含まれ、B は「農民」という特徴を持っているものの集合であり、A はその集合の中の構成素であるということを示している。(7) で示して

いるように、包摂関係の文はAとBを置き換え、「B是A」の形にすることができない。

王亜新 (1999) の文でも、中国語のコピュラ文には「対象指示」と「属性規定」の文があるとしており、それぞれ杉本 (2002) での「同一関係」と「包摂関係」の文に対応すると考えられる。

2.3. 中国語学におけるコピュラ文の分類の問題点

2.2節で述べた分類は、中国語のコピュラ文の意味と性質を明らかにするには不十分であると考えられる。杉村 (2002) および王亜新 (1999) は、「A 是 B」におけるAとBを置き換え、「B 是 A」という形式にした場合は、その文が文法的な文になるか否かという基準により、中国語のコピュラ文を分類している。

しかし、杉村および王亜新は、「A 是 B」におけるAとBを入れ替えた時に、意味の違いが生じるかという点については考察していない。また、杉村(2002) および王亜新 (1999) で挙げた中国語のコピュラ文は副詞「就 (*jiu*)」を加えた文が多く見られる、例えば、

(8) 老張　就　是　那　个　人
張さん　then　COP　その-CL-人
'張さんはその人だ。'

(9) 老張　就　是　那　几　封　匿名信　的　作者
張さん　then　COP　それ-いくつ-CL　匿名-手紙　GEN　書き手
'張さんはそれらの匿名手紙の書き手だ。'

(8) と (9) では、コピュラ動詞「是 (*shi*)」の前に「就」という副詞が挿入されている。「就」という副詞は、英語、または日本語においてはそれに対応する語彙がない。異なる使用場面に応じて、違う語に訳されるのが一般的である。例えば、(8) と (9) では「就」は「then」として訳されている。また、「就」には尺度の意味もあると指摘されている。条件文などでは「就」は後件節の中に現れ、英語の「then」に訳されることが多い。この「就」の挿入という現象については、従来の中国語学のコピュラ文の研究では、あまり重要視されることはなく、「就」が現れる文では、ほとんどの場合、「(jiu)」のように括弧で括られ、「就」の有無が、文の意味や統語的な特徴に影響を及ぼすことはないと考えられてきた。

しかし、西山 (2003) におけるコピュラ文の分類を中国語に導入し、中国語のコピュラ文をより詳しく分類すれば、AとBの入れ替え、および「就」の挿入が意味の違いを生じうることが分かる。特に疑問コピュラ文では、AとBは意味に影響を及ぼすことなく置き換えることはできないこと、指定文と同定文は、「就」を挿入することができるか否かの事実が、コピュラ文の分類に対して重要な意義をもつことを示す。

3. 中国語の措定文、指定文および同定文

本節では、疑問コピュラ文と平叙コピュラ文についてそれぞれ見ていく。「A 是 B」の形式を有してい

るコピュラ文のそれぞれのタイプ (措定文、指定文、同定文) について A と B の置き換えが可能か否かにいて検討する。

3.1. 中国語の疑問コピュラ文

吕叔湘 (1984) で既に指摘さているように、中国語では「谁是 N？ (誰が N ですか？)」と「N 是谁？ (N は誰ですか？)」の形式をしている文は、同じ意味を有しているわけではなく、異なるコンテクストで使われる。以下の (10) と (11) の例を見てみよう。

(10) (会場に入った時、王さんという人がそこにいるということは知っていたが、王さんの顔がわからなかったため、隣の人に尋ねる。)

a. 谁 是 老王？
誰 COP 王さん
'誰が王さんですか？'

b. #老王 是 谁？
王さん COP 誰
'王さんは誰ですか？' (吕叔湘 1984: 305)

(11) (家族とおしゃべりをしていると、王さんという人が話題にのぼった。王さんとはいったい誰なのか分からず、家族に尋ねる。)

a. 谁 是 老王？
誰 COP 王さん
'誰が王さんですか？'

b. 老王 是 谁？
王さん COP 誰
'王さんって誰ですか？'

「谁是老王？ (誰が王さんですか？)」、「老王是谁？ (王さんは誰ですか？)」 という二つの文は、(10) と (11) の文脈において違う振る舞いをすることが分かる。(10) の文脈では、「谁 (誰)」がコピュラ動詞「是」の前にある (10a) は適切であるが、「谁」が「是」の後ろにある (10b) は適切ではない。それに対し、(11) の文脈では、「谁」が「是」の前にある (11a) も、後ろにある (11b) もともに適切であると判断される。

西山 (2003) のコピュラ文の分類に従うと、(10) は王さんの「指定」を求める文脈、(11) は王さんの「同定」を求める文脈となる。(10) では会場の中にいる人の構成員からなる集合が設定されており、その集合の中において、「どの構成員が王さんか」という質問になる。これは西山 (2003) での指定文にあたる文脈である。

西山 (2003) のコピュラ文の分類に従うと、(10) は王さんの「指定」を求める文脈、(11) は王さんの「同

定」を求める文脈となる。(10) では会場の中にいる人の構成員からなる集合が設定されており、その集合の中において、「どの構成員が王さんか」という質問になる。これは西山 (2003) での指定文にあたる文脈である。(11) は「王さん」の指示対象について他から識別する情報、つまり、同定に必要な情報を求める質問である。

また、(12) のような措定文を求める文脈では「N 是什么人？ (N はどんな人ですか？)」というような WH 疑問詞が後ろにある文だけが適切である。

(12) (王さんがどんなん人か知りたくて、王さんのことを知っている人に尋ねる。)

a. *什么人　是　老王？
どんな人 COP 王さん
'どんな人が王さんですか？'

b. 老王　是　什么人？
王さん COP どんな人
'王さんはどんな人ですか？'

(12)は「王さん」の指示対象の属性を聞くコンテクストである。「王さん」の指示対象の属性について求める質問である。また、(12a)「什么人是N？ (どんな人がN ですか？)」のような WH 疑問詞が前にある文は不適切となることに注意されたい。

以上のことをまとめると、中国語の疑問コピュラ文は、表１のようになる。

表1

	指定文	同定文	措定文
WH 是 *(shi)* N?	○	○	×
N 是 *(shi)* WH?	×	○	○

表 1 で分かるように、指定の答えを求める文脈では、WH 疑問詞が「是*(shi)*」の前にある文しか使えないのに対し、同定の答えを求める文脈では、WH 疑問詞が「是*(shi)*」の前後のどちらに位置することもできる。また、措定文に関しては、WH 疑問詞が「是*(shi)*」後にある文しか適切でない。

異なるコンテクストでは、疑問詞の位置が違ってくるという観察が従来の中国語学では指摘されてきた（杉村 (2003),王亜新 (1999)など）。本論文では西山 (2003) におけるコピュラ文の分類に従い、指定文、同定文、措定文を求めるコンテクストで疑問コピュラ文の振る舞いを見た。結果として中国語の疑問コピュラ文は表１のような振る舞いをすることが分かった。この事実が、中国語においてもコピュラ文の分類に対して重要な意義をもつと考えられる。

3.2. 中国語の措定文、指定文と同定文

3.1 節では疑問コピュラ文の特徴を見てみた。本節では平叙文の特徴ついて見ていく。まず (13)のよう

な同定文を見てみよう。

(13) (家族とおしゃべりをしていると、王さんという人が話題にのぼった。王さんとはいったい誰なのか分からず、家族に尋ねる。)

a. A: 老王是谁？ (王さんって誰？)

b. B: `**隔壁 烤肉 店的 老板** *(就) 是 老王 「**B** *(就) 是 A」

隣 焼肉 店GEN オーナー jiu COP 王さん

'隣の焼肉屋のオーナーが王さんです。'

c. B: 老王 *(就) 是 `**隔壁 烤肉店 的 老板** 「A *(就) 是 **B**」

王さん jiu COP 隣 焼肉店 GEN オーナー

'王さんは隣の焼肉屋のオーナーです。'

(13a) は同定を求める文脈であり、話し手 A が「王さん」は一体誰であるか、ということを尋ねる質問であり、(13b,c)は、その質問に対する答えである。(13) の文脈において、「王さん」は「隣の焼肉屋のオーナー」によりその特徴が表される表現であり、それによって「王さん」を他の人から識別して認定していると考えられる。

(13a,b) はそれぞれ「**B** *(就) 是 A」と「A *(就) 是 **B**」の形式を持つコピュラ文である。(13a) では焦点句 B「隔壁烤肉店的老板 (隣の焼肉屋のオーナー)」は「就」とコピュラ動詞「是 (*shi*)」より前にあり、(13b) では焦点句 B が「就」とコピュラ動詞「是 (*shi*)」より後ろにある。本論文では、西山 (2003) に従い、(13a) のような焦点句が前にある文を同定文、焦点句が後にある文を倒置同定文と呼ぶ。(13) で分かるように、中国語の（倒置）同定文では「就」の挿入が義務的となる。この「就」の挿入の現象は従来の中国語学における研究ではあまり重要視されていない。すでに述べたように、「就」が現れる文では、ほとんどの場合は「(就)」のように括弧で括られ、文の意味や統語的な特徴に影響を及ぼすことはないと考えられてきた。これは、「就」が本来持つ意味が曖昧で薄く、1 節で紹介したように多くのところで使われる。ほんとんどの場合は、「就」の有無は文の真理値に影響がないと考えられるためである。しかし、(13) で分かるように同定を求める文脈では「就」の挿入が義務的となる。このような現象は、単純に「A 是 B」の形式を有する文で「A」と「B」の置き換えができるか否かという視点でみるだけでは分からないことである。

次に、「就」の挿入がないコピュラ文はどんな文脈で使われるかを見てみよう。

(14) (隣の焼肉屋のオーナー、次郎の担任の先生、山田家の執事の中で、)

a. A: 谁是老王？ (誰が王さんですか？)

b. B: `**隔壁 烤肉 店 的 老板** (*就) 是 老王 「**B** 是 A」

隣 焼肉 店 GEN オーナー jiu COP 王さん

'隣の焼肉屋のオーナーが王さんです。'

c. B: *老王　(就)　是　`隔壁　烤肉 店的　老板　　「A 是 **B**」
王さん　jiu　COP　隣　焼肉 店GEN　オーナー
‘隣の焼肉屋のオーナーが王さんです。’

(14b) は、「隣の焼肉屋のオーナー、次郎の担任の先生、山田家の執事」という三人の構成員からなる集合が設定されており、その集合の中において、「王さん」はどの人かという質問に対する応答である。

西山 (2003) での指定文の定義に従うと、 (14b) において、「是老王 (王さんである)」は変項名詞句を含んだ述語であり、「x 是老王 (x が王さんである)」という意味を表している。つまり、(14b) は、「隣の焼肉屋のオーナー、次郎の担任の先生、山田家の執事」という集合の中で「x が王さん」という変項名詞句の変項の値を聞く wh-疑問文とそれに対しる応答が単一の文の中で実現している文である。つまり、(14b) は指定文であることが分かる。(14b) では、「就」を挿入することはできないことを確認されたい。また、「A 是 **B**」の形式を持つ (14c) は「就」の挿入があってもなくても文が不適格である。

最後に措定文について見てみよう。(15) は措定文の文脈である。

(15) (王さんがどんなん人か知りたくて、王さんのことを知っている人に尋ねる。)
老王　是　什么人　(谁)？
王さん　COP　どんな人
王さんはどんな人ですか？’
a. 老王　是　医生　　「A 是 **B**」
王さん　COP　医者
‘王さんは医者である。’
b. *医生　是　老王　　「**B** 是 A」
医者　COP　王さん
‘医者が王さんである。’

(15c) では「老王　(王さん)」の指示対象に関し、それが「医者」という性質を持つという意味を表している。措定文は「A 是 **B**」の形式を持つ文が的確であるのに対し、「**B** 是 A」の形式が不適格になる。

3.3. 日本語と中国語の区別

以上では西山 (2003) におけるコピュラ文の分類に従い、指定文、措定文、同定文のコンテクストを作り、中国語のコピュラ文の特徴を検討した。本節では、英語、日本語と中国語の区別を見てみよう。表 2 はこの 3 言語の異同をまとめたものである。

表 2

	措定文	指定文	同定文
日本語	A は **B** だ	**B** が A だ A は **B** だ	**B** が A だ A は **B** だ
中国語	A 是 **B**	**B** 是 A	**B** 就是 A A 就是 **B**
英語	A is B	**B** is A	**B** is A

表 2 で分かるように、日本語と中国語の措定文では指示名詞句 A が前、叙述名詞句 B が後ろに位置し、A と B の置き換えが不可能である。指定文の文脈では、日本語では「は」と「が」の使い分けにより変項名詞句 A と値名詞句 B の置き換えが可能になるが、中国語では値名詞句 B が前にある形式しか許されない。日本語の同定文は、指定文と同様な形式、つまり、「**B** が A だ」、あるいは「A は **B** だ」の両方とも使えるのに対し、中国語の同定文は名詞句 B と A の置き換えができるが、副詞「就」の挿入がなければ、同定文としての意味が捉えられないことが 3.2 節で示した。また、英語の指定文と同定文では A と B の置き換えが不可能である。

4. 今後の課題

指定文と同定文における日中両言語の区別は非常に興味深いところである。英語では指定文と同定文は両方とも「**B** is A」の形式しか適格でないことなどが Higgins (1979) などでは指摘されている。しかし、日本語の指定文と同定文では「は」と「が」の使いわけが B と A の置き換えを可能にする。また、中国語では同定文は指定文と異なる形式を持ち、副詞「就」の挿入が義務的となる。中国語においては、指定文では B と A の置き換えが不可能であるが、同定文では「**B** 就是 A」と「A 就是 **B**」のような形式で B と A の置き換えが可能である。

以上のことから、中国語の同定文の意味、または構造を明らかにするには副詞「就」の意味・機能を調べる必要があることが分かる。「就」についての研究は多く見られる (Tsai (2017), Tsai (2019), など)。今後は「就」の分析を踏まえた上で、指定文と同定文の意味を統一的に説明できることを試みたい。

参考文献

Higgins, Francis Roger (1979) *The Pseudo-cleft Construction in English*. New York: Garland.

Hole, Daniel P (2004) "*Focus and background marking in Mandarin Chinese -System and theory behind cái, jiù, dōu and yě-*." London: Routledge Curzon.

Tsai, Cheng-Yun Edwin (2017) "Preverbal number phrases in Mandarin and the scalar reasoning of *jiu*." *Proceeding of the 34th West Coast Conference on Formal Linguistics*, 555-561.

Tsai, Cheng-Yun Edwin (2019) "Contrastive topics, anti-exhaustivity, and the semantics of Mandarin *dou*." *The 27th Annual Conference of International Association of Chinese Linguistics*.

王亚新 (1999)「中国語の名詞述語文における「指定」機能」『東洋大学紀要 教養課程篇』38, 203-216, 東洋大学教養課程委員会.

熊本千明 (1995)「同定文の諸特徴」『佐賀大学教養部研究紀要』27: 147-164. 佐賀大学.

熊本千明 (2013)「帰属用法と Whoever 節の機能」『名詞句の世界』: 341-368, ひつじ書房.

杉村博文（2002）「论现代汉语特指疑问判断句（現代中国語の コピュラ文における wh 疑問文）」『中国语文』1: 14-21. 人民教育出版社 .

張雨辰 (2018) 『「就 (*jiu*)」を伴った同定文から見る中国語のコピュラ文』 大阪大学言語文化研究科修士論文.

西山佑司 (2003)『日本語の名詞句の意味論と語用論』ひつじ書房.

吕叔湘 (1984a)「'谁是张老三？' ＝ '张老三是谁？'？」（「誰が張さん？」=「張さんは誰？」？）『中国语文』4: 305. 人民教育出版社 .

吕叔湘 (1984b)『现代汉语八百词（現代中国語における八百語）』商务印书馆.